

お鮭の順列・組合せ

先般公開した「お鮭と音楽について」の中で、「1貫1楽曲と解釈すれば”おまかせ”10貫が、ライブコンサートとなる」と書いた。では、1貫1楽曲の順列（コンサートの曲順）が違ふと、どうなるのかと考えてみた。つまり、召し上がる順序が違ふと、どうなるのか。結論は「相当に違ふ印象」となる。体験済みであり、間違いはない。味の余韻がそうさせると考えている。実際、計算上は、相異なる（ネタ）10種10貫の召し上がり方の順序（順列）は、10P10の3,628,800通りにもなるのである。

一生涯に何食食べることができるのか。平均寿命を仮に85歳とすると、1日3食、年365日として、3食×365日×85年=93,075食となる。一生涯に「9万3千食も」と考えるのか「9万3千食しか」と考えるかは、その人次第であり、一概には言えないし、その時々（年齢）次第もあり得るのであろう。そして、毎日・毎食全て費やし、上記の順列”3,628,800通り”を試食しようとする、約3千3百年以上かかる（約39生涯）こととなる。（1食10種10貫、1日3食、1年365日として）

したがって、どの順序（順列）で召し上がるのが「最高に美味しい」かを追究することは、現実的に無理であり、もし、信頼できるお鮭屋さんで召し上がるなら、「おまかせ」で、出される順（専門家にお任せ）に召し上がるのが”最善”となるのではないか。

一方、お持帰りの「すしセン®」の10種10貫が原則の「いしかわ旬の鮭だより®」においては、手前右から左に、奥右から左に召し上がるのがお勧めであるが、決して召し上がる順序まで押付けるものではないから、お好きなように召し上がってください。

次に、組合せについて考えてみる。ここでの組合せとは、鮮魚介類に限って、数多ある食材の種類から、ネタを10種選択するについてのみ（調理法の種類は今言及しない）に限定する。執筆時（7月上旬）の県内漁獲種は、底曳網漁が禁漁で大幅に減ってはいるが、それでも概ね30種は下回らないし、他県産や輸入物を含めると、約50種程が候補となる。その50種から10種を選ぶ組合せは、50C10の約102億通りとなり、同じ組合せとなる可能性は極めて低く（あり得ない）、結果、毎回「一期一会」となる。

つまり、毎日毎日違った組合せとなる「いしかわ旬の鮭だより®」は、召し上がる順序も「お好きなように」であることから、魚種の少ないこの時期でさえ、102億×362万通り中一つの「究極の一期一会」となることを、どうぞご理解ください。

また、お鮭は、毎日・毎食召し上がるものではない「ハレ」の食べ物であることから、お客様各位が、この「究極の一期一会」の機会を逃すことなく、末永く、より多くの機会が与えられますように。そして、「毎日がすし曜日」となることを衷心より祈念します。